

令和2年度 標準学力調査 指導改善リーフレット 国語

●対象：市内の公立小学校4年生、中学校1、2年生 ●実施期間：令和2年6月8日(月)～6月12日(金)

全体的な傾向

成果・【伝国】における、主語・述語(小4③(1))や漢字を読む(小4②(1)①)はよく身につけている。

- ・【話すこと・聞くこと】における、話の内容を聞き取る、話す(小4①(3)⑥(1)) (中1①(3)) (中2①(3))はよく身につけている。
- ・【伝国】における、漢字を読む(中1②(1)①) (中2②(1)①②)はよく身につけている。
- ・【読むこと】における、説明文や文学作品の内容を読み取る(小4④(2)(3)⑤(3)) (中1④(2)(3) 5(3)) (中2④(2)(4)⑤(3))はよく身に付いている。

- 課題・【伝国】における、漢字を書く(小4②(2)①)は全国的な傾向より下回り、平均正答率も①53.0%と課題がある。
- ・【書くこと】における、作文(小4⑦)は全国的な傾向より下回り、平均正答率も低く課題がある。
 - ・【伝国】における、漢字を書く(中1②(2)②) (中2②(2)②)は全国的な傾向より下回り、平均正答率も29.9%、22.7%と課題がある。
 - ・【書くこと】における、作文(中1⑦) (中2⑦)は全国的な傾向より下回り、平均正答率も低く課題がある。

①課題となる問題【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】漢字を書く

分析

小4→第3学年配当漢字を書くことの定着が不十分。
中1、中2→小学校で学習した漢字を書くことの定着が不十分である。

指導にあたって

漢字の学習で大切なことは、その意味や使い方である。よく使われる例文も一緒に学習する習慣を身に付けさせることが大切である。また、学校生活において、自分の考えをまとめさせたり振り返らせたりする際に、使わなければならない漢字をいくつか示すなど、学習した漢字を使う機会を意識的に設定していく必要がある。

指導例

漢字学習の機会と場の設定

ポイントは漢字に親しみ、身に付けた漢字の知識を活用できるような場を設定していくこと。

漢字の習得方法の例

新出漢字 新しい漢字との出会い

- ①文脈の中で意味と使い方を調べる。(国語辞典・漢和辞典を活用する)
- ②字形と筆順に気を付けて正しく写す。
- ③熟語で、または送り仮名と共に繰り返し練習する。
- ④覚えたかどうかを自分で確かめる。
- ⑤覚えていない場合は③に戻り、正しく書けない場合は②に戻る。

その後の漢字とのつきあい方

- ①国語の授業以外においても文章を書く際には既習の漢字を使う。
→ひらがなで書いている場合には、漢字で書くように促す。
- ②同音異義語や同訓異字等にまで学びを広げる。
→漢字や部首の意味を理解していないと違いを理解できないことに気付かせる。

指導上の留意点

授業では…

- ①漢字や部首の意味、文脈における語句の意味等、意味理解を押さえる。
- ②辞典を活用する習慣をつける。
- ③文章を書く際に習った漢字を使って書くよう指導する。
- ④間違えて覚えた筆順や字形はなかなか直せないで、覚え初めに正しい筆順や字形で書くように指導する。

他教科や授業以外の場面において…

- ①国語以外で書く文章についても既習漢字を使うよう指導する。
- ②読書を推進することでさまざまな漢字や語句に触れる機会をもたせる。
→読解力だけでなく、語彙が増える機会であることも意識させる。
- ③他教科・領域の中、生活の中で見聞きする漢字(社会科の地名、理科の自然に関する用語等)意識させる。

令和2年度【標準学力調査】
分析用参考資料より

① (小4)	病 部	病 院
④ (中1)	専 門	専 問
④ (中2)	候 補	候 補

誤答分析シートや誤答例をもとに、つまづきへの指導をしましょう。

②課題となる問題【書くこと】作文

分析

問題で示された条件に従って文章を書く力の定着が不十分である。

指導にあたって

日頃から、200字程度の長さで、自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、中心を捉えた文章を書くことができるようになる。学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面で書く経験を積ませることが大切である。

指導例

文章の構成や展開に着目して書かせる活動



ポイントは、児童生徒自身が文章を書く上での課題を知って、改善しながら書く機会を多く設けること。

指導上の留意点

- ①条件を設けた短作文を書かせる。
→「三段構成」「第一段落には…」など、条件を設ける。条件の内容は「付けたい力」に合わせる。
- ②評価を短期間でフィードバックする。
→長い期間を置いてフィードバックするよりも効果的なので、字数は100字から300字くらいで書かせる。
- ③評価基準を焦点化する。
→一つの作文において、あれもこれも評価するのではなく、付けたい力に沿った観点を設定して評価する。
(例)「根拠が適切であるか」「考えと事実を書き分けているか」「文体は統一されているか」「文のねじれはないか」等
- ④段落という定義を正しく理解させ、支援を要する児童生徒には、同じ課題を繰り返し出し、前回よりも良くなっている点について一緒に確認する等の取組も考えられる。

指導例

書く必然性をもたせた言語活動の設定



ポイントは、「書く」対象が何かを明確に捉え、「伝える」意識をもたせること。

相手にわかりやすく伝えるには?

「どのような相手」に対して、「何を」「どう伝えればいいのか。」をまず書き出してみるといいよ。

どちらの方法がよいと思うか「根拠」や「理由」を明確にして書くといいよ。なぜなら、こういう理由で… 例えは…

ア 町の人に話を聞いて調べる。
イ 学校や地いきの図書館で調べる。

自分の町について調べて、となりの県でくらし
ている友達にしようか調べることにしました。
自分の町のことを調べるときには、次のアとイの
方ほうのうち、どちらの方ほうがよいと思いま
すか。あなたの考えを、下の(注意する点)を守
って書きましょう。



正答例

○平成31年度(令和元年度)『全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例』

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/h31/index.htm>

- 小学校：「学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書こう」
～目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く～
- 中学校：「説明的な文章を読み、書き手の工夫を見つけて交流しよう」
～文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる～ など

「令和2年度那覇市【標準学力調査】分析用参考資料」、「Web評価システム」の諸資料、フォローアップワークシート、弱点克服ドリルの活用をお願いします。